

平成 27 年度 岡山大学大学院法務研究科  
第 2 次募集 法学既修者入試 試験問題

## 刑事法系（刑法、刑事訴訟法）

### 解答上の注意

1. 問題冊子は、表紙を含め 3 枚である。
2. 問題には、問題 1 と問題 2 がある。配点は、問題 1 が 50 点、問題 2 が 50 点である。
3. 表裏に解答欄がある解答用紙は、問題 1 用と問題 2 用の 2 枚が配布されている。各問題ごとに解答用紙 1 枚を使って解答すること。
4. 解答用紙の受験番号欄に受験番号を算用数字で記入し、また試験科目欄に「刑事法系」と記入すること。なお、整理番号等その他の記入欄には記入しないこと。
5. 試験終了後、問題冊子及び下書き用紙は持ち帰ること。
6. 解答の際は、黒又は青のボールペンを使用すること。
7. 試験終了後、解答用紙と貸与した六法を回収するので、指示があるまで席を立たないこと。
8. その他は、すべて監督者の指示に従うこと。

【問題 1】 以下の事例を読んで、Xの罪責を論じなさい（特別法違反の点を除く）。  
（解答の冒頭に「問題 1」と記入すること。）

Xは、Aがいきなり日本刀で切りかかってきたので、防衛のためやむを得ずAに向けてピストルを発射したところ、弾丸はAには命中せず、予想外にたまたまAの背後にいたBに命中し、Bが死亡した。その後、Xは、死亡したBが高級腕時計を身につけているのに気づき、換金目的で腕時計を外して持ち去った。

《問題 1 以上》

《次頁に続く》

【問題2】（解答は、【問題1】を解答した用紙とは別の解答用紙に書き、冒頭に「問題2」と記入すること。）

警察官P及びQは、管轄区域で深夜、放火事件が多発していたのでパトロールをしていたところ、午前3時ころ、無灯火で自転車に乗っているXを発見した。そこでPが、「ちょっとすみません。」と声をかけたところ、Xが急に自転車の方向を変えて逃げようとしたので、Pらが50メートルほど走って追いかけて、Pが自転車の荷台に手をかけてこれを停止させた。Pが「どうして逃げるの。」などと尋ねたところ、Xは「別に怪しいもんじゃない。」と言って慌てたように答えた。しかし、P及びQは、Xの落ち着かない態度から不審感を抱き、さらにQが自転車の前かごを見たところ、透明の液体の入った小瓶が無造作に入っているのを発見した。そこでQがXの承諾を得ずに小瓶を手にとって匂いをかいだところ、小瓶にガソリン成分が付着していたためガソリン臭がしたので、「これは何か。」と尋ねたもののXは何も答えなかった。そこで、P及びQは、さらに不審感を強め、Pが「お前、この辺りで放火か何かやったんじゃないか。」と言いながら、Xが着用していたジャンパーの外側ポケットをポケットの上から触ってみたところ、ライターのような形状の硬い物があることがわかった。そこでPが「ちょっといいか。」と言いながら、承諾を得ずにポケットの中に手を入れて中身を取り出したところ、中からライターが出てきた。

本件において、P及びQの行った行為は適法か。

《問題2 以上》  
《刑事法系問題 以上》

**【出題意図】**

**問題 1**

防衛行為と第三者侵害、いわゆる死者の占有と暴行後の領得意思といった法学部の刑法において学修する基本的な事項を問うことにより、刑法理論に関する正確な理解をみるとともに、事例処理能力を試すものである。

**問題 2**

本問は、職務質問に伴う所持品検査の適法性について問うものであり、本件警察官が行った所持品検査の態様ごとに検討を求めるものである。